

ガバナー公式訪問報告

※紙面の都合上や原稿の到着日により掲載順が前後する場合がございますのでご了承ください。

札幌南ロータリークラブ

10/3(月)

10月3日(月)、国際ロータリー第2510地区石丸修太郎ガバナー、平昌夫ガバナー補佐、久木利弘地区財務委員の公式訪問にて「クラブ協議会」、並びに「札幌南RC例会」が札幌パークホテルにて開催されました。

クラブ協議会は11時より12時20分まで、80分間にわたり札幌南RCの現状と今期の計画につき協議されました。クラブ奉仕担当7委員長並びに統括する池田達昭副会長、国際奉仕担当6委員長と齋藤友子副会長の計15名から各委員会の活動目標と現状が報告されました。ガバナーからのご意向もあり、各自のロータリー観につきましても発表内容に盛り込まれました。

札幌南RCの本年度基本テーマは「なごやぎの輪を二重に、そして三重に広げよう」と設定しています。「なごやぎの精神」は当クラブ設立以来受け継がれており、「和やか」「安らぎ」の気持ちで多様な会員同士(Diversity)が公平(Equity)に接し、結び合おう(Inclusion)というものです。新入会員を多く迎え二重の輪にし、各種福祉・支援団体との提携関係を深め三重に輪を広げ、奉仕活動を推し進めようとするものです。本年度に入り、4名の新入会員が加わり、基本テーマが着実に実現されつつあります。

各委員長の発表もクラブ基本テーマに沿ったもので、予定時間を超えるのではないかとと思われるほど積極的な発表が続きました。

石丸ガバナーにおかれましてもご理解ご賛同頂けたものと思っております。

12時半より、当クラブ例会が開催され、石丸ガバナーより卓話を頂戴いたしました。国際ロータリー、ジェニファー・ジョーンズ会長の「ビジョンと目標」である「イマジン・ロータリー」、石丸ガバナーの地区目標である「ロータリーに思いを馳せる」をご説明され、また、他ロータリークラブの先進的活動をご紹介いただきました。また、会員間の交流と親睦を一層高めるため、ファイヤーサイド・ミーティングの役割を強調し、新入会員を交えたFSM、委員会合同によるFSMなどの開催を提案されておられました。

まことに実りの多い「ガバナー公式訪問」でございました。

本年度も残り9カ月となりましたが、ガバナーご指摘の「青少年への支援を発展・充実」、さらに「クラブ会員間の関係性の深化」の分野について、一層の努力を致す所存です。



札幌清田ロータリークラブ

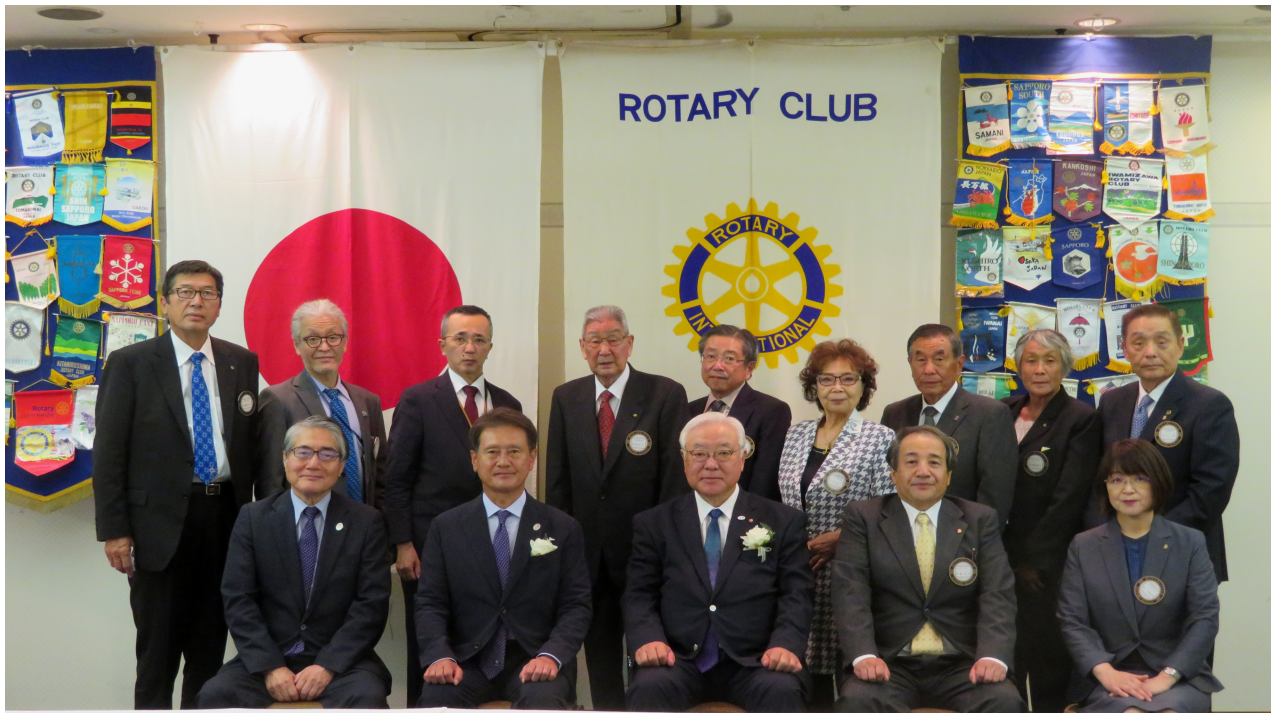
10/4(火)

10月4日プレミアホテルTSUBAKI札幌においてガバナー公式訪問を執り行いました。十分な事前準備はしたものの、やや緊張した面持ちで石丸ガバナー、平ガバナー補佐、河口地区代表幹事をお迎えしました。まず会長・幹事との懇談会ではクラブの概要、会員構成、活動状況を説明し、当クラブは少人数ではありますが、地域に根ざした活動を会員一丸となり続けてきたことを説明いたしました。その後休憩を挟み、クラブアッセンブリーを開催いたしました。

冒頭のガバナーのあいさつに続き、各委員長の活動計画を発表いたしました。その際ガバナーより、できるだけ委員長さんのご自身の言葉で発言していただきたいとの要望があり、各自がロータリーへの思いを込めての発表が出来た事は、実に新鮮でありました。ガバナーからは少ない人数でも広く活動できている点、小学校への図書寄贈を行っているなら、ぜひ読書感想文のコンクールを行うと、より素晴らしいものになるなどのアドバイスをいただきました。クラブとして今後の検討課題にしていきたいと思えます。

その後の例会ではガバナーより卓話をいただきました。ロータリー財団はウクライナ支援のための基金を開始し、当地区もそれに準じレスキュー車提供などの支援活動をしている事。また、ポリオ根絶キャンペーンをラジオ局より発信し寄付を広く呼び掛ける活動や地区のライラ活動への参加協力の内容などの説明を受けました。最後には今年度のテーマに沿ってクラブの将来像を打ち立て、新たな事業、青少年の支援を充実させる事。そして会員の職業をより理解するために、会員卓話を充実させる事の重要性を話され、さらに認識を新たにいたしました。その後参加者全員で記念写真を撮り散会となりました。

石丸ガバナーの懇切丁寧な説明と、温かみのある会話に終始なごやかな時間を過ごすことができました。会員一人ひとりにとっても今後の指標となる有意義な一日になったと思えます。石丸ガバナー、平ガバナー補佐、河口地区代表幹事におかれましてはご多忙中のなかの訪問、会員一同心より感謝御礼申し上げます。



札幌大通公園ロータリークラブ

10/4(火)

札幌大通公園RCは、去る10月4日（火）、石丸修太郎ガバナー、平昌夫ガバナー補佐、中村真規幹事をお迎えすることができました。当日は17:30より会長、幹事、委員長が各々、クラブの現況や今後の計画をご報告申し上げ、続いて18:30より例会にご案内いたしました。当クラブは夕刻に例会を行っておりますが、月2回のうち1回を「ほっとパーティ」と定めています。すなわち、会員各位が飲食物を持ち寄り、親睦を深め合う会です。通常は月の後半に催されますが、今回はガバナー公式訪問に合わせ、前半に移動させました。

点鐘、「我らの生業」斉唱、「4つのテスト」唱和に続き、乾杯の後、ガバナーの卓話を賜りました。最初に、J・ジョーンズ国際ロータリー会長のテーマ、「イマジン、ロータリー」、およびガバナーの「ロータリーに思いを馳せる～明日のロータリーに夢を込めて」の関連性につき、ご教示いただきました。続いて、それらに即した具体的な方策をご説明くださいました。会長としましては、国内およびグローバルな経済、社会、政治の大転換の渦中であって、いかに会員と寄付金とを拡充しつつ、奉仕活動をより盛んに、効果的に為すべきかにつき、中長期的な展望を持つのが枢要である、と理解いたしました。当クラブに関していえば、財団、米山学友の会員が複数おり、財団留学生のスポンサー活動に注力してきたことから、明日のロータリーを担う潜在的な会員とつながる機会を把握できるのではないか、と希望を持ちました。

卓話終了後には飲食、歓談の流れとなりました。ガバナーは蒸留酒のジンと、おつまみの落花生をお持ちになりました。いずれも、近辺で入手できるものと姿かたちこそ似ていましたが、香り、口触り、味が全く異なり、気品が漂っておりました。会長初め、同席した会員は漏れなく、アルコール飲料に目がありませんが、ガバナーはいずれであるのか分かりかねていたため、当初は殊勝にしておりましたが、次々に杯を空けられ、楽しくご歓談されるお姿を拝見し、すっかり打ち解けて、通常通り、それ相応の分量を嗜むことができました。ガバナーの気さくなお人柄に触れることができ、一同は感激至極でありました。今後とも上記のテーマに即して、着実な活動を続けたく存じますので、ご叱正ご教導のほど、何卒お願い申し上げます。



新札幌ロータリークラブ

10/5(水)

10月5日(水)新札幌RCに石丸修太郎ガバナー、平昌夫第5グループガバナー補佐、川端忠範地区財務委員長がいらっしゃいました。

10時から会長・幹事会を行い、会員数や年齢層・ロータリー歴等に関するクラブの現状や会員増強についてなどを会談させて頂きました。

また、クラブ運営に関する事としてニコニコボックスの用途などについて、財務委員長よりアドバイスも頂き、有意義な懇談会となりました。

11時からのクラブ協議会では各委員長の活動方針報告以上に、石丸ガバナーよりお題を頂き、「ロータリークラブに対する各自の想い」を発表する事となり、参加会員からも普段なかなか聞けない各会員の想いを聞ける場となりました。

12時30分からのガバナー公式訪問例会は通常進行にて行われましたが、バナー交換後の石丸ガバナーの卓話では、国際協議会の事についてのお話から始まり、今年度のRI会長のテーマについて、ロータリーの将来についての創造や私たちに何が出来るのか、ロータリーに何が出来るのかを皆で想像し、地区目標についてのお話に移られました。

地区目標は4つ、一つ目は「未来ビジョン委員会」

3年後、5年後、10年後に自クラブどうなっていたらいいのか、その目標には何が必要なのか。その為に会員増強であったり色々な所に派生されていくのではないのか。

二つ目は「新しい事業へのチャレンジ」

多くの会員の才能をフルに活用して何か事業をする。これがロータリーらしさ

三つめは「若い世代に対して何か良くしたい、支援したい」

次の世代を育てる事はロータリーとして最大の喜びになるというのが石丸ガバナーの思いであり、青少年に対する支援活動も少しはやりましょう。

新札幌に於いては若い子供達、青少年に目を向けている事も評価頂きました。

四つ目はコロナ禍に於いて活動出来なかった数年間がありました。現在は人もある程度動くようになってきたので「何かをやる前提で色々な活動計画を」という事でした。

コロナ禍だから進んだIT、会員同士でのLINEでのやり取りなど、ITを上手に使いながら活動計画を立て実践して頂ければというお話を伺いました。

コロナ禍から抜け出し、みんなが本当にロータリー活動に心から楽しい、達成感のある活動に力を注ぎ、いい仲間と言いつつ活動をする事が最高の事であると締められました。

最後にはVTTの紹介や来年の国際大会についてのお話、来年2月の国際ロータリースキー同好会の案内も頂き、ロータリー活動のエンジョイ、クラブも盛り上げ会員も増やして元気な新札幌ロータリーの発展をと激励を受けた卓話となりました。



札幌東ロータリークラブ

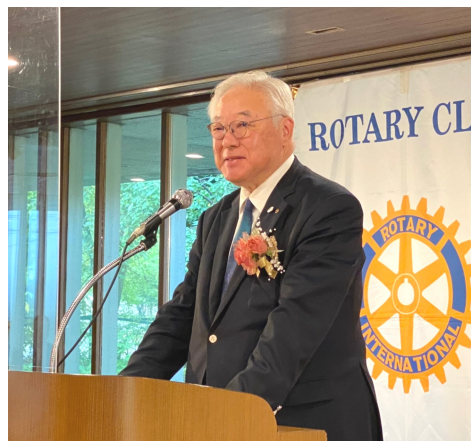
10/6(木)

10月6日（木）に石丸修太郎ガバナー・平昌夫第5グループガバナー補佐・河口義憲地区代表幹事をお迎えし、ガバナー公式訪問例会を開催いたしました。

例会に先立ち、10時30分から行われた会長・幹事懇談会では、当クラブの概況やウクライナに関わる第2510地区対応など、和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。

11時からのクラブ協議会では、石丸修太郎ガバナーのご提案により、「活動計画書については書面で確認できるので、委員長としての立場からどんな思いであるのか。またご自身のロータリー観を話してほしい」とのご要望が出されました。各委員長からのお話から、皆さんの札幌東RCでの経験が人生に役立っていることが伝わったと感じました。また、石丸修太郎ガバナーへの質問についても、快くご回答いただくなど、ガバナーのお人柄を認識することができたとても良いクラブ協議会でした。

12時30分からの例会では、RIテーマである「IMAGINE ROTARY」、これを石丸ガバナーがRI2510地区の会員にわかりやすく伝えるために「ロータリーに想いを馳せる ～明日のロータリーに夢を込めて～」としたこと、ならびに4つの目標についてご説明いただきました。そして最後に国際奉仕について、ご自分の身をもって国際親善を経験してほしい、また日本独自の取組である米山奨学生の輩出による日本と他国の親善大使の人材を養成しようと呼びかけられるなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。ご多忙の中、クラブをご訪問いただき心より感謝申し上げます。



札幌幌南ロータリークラブ

10/7(金)

去る、2022年10月7日、石丸修太郎ガバナー、平昌夫第5グループガバナー補佐、川端忠範地区財務委員長をお迎えして、当クラブのガバナー公式訪問が執り行われました。

例会に先立ち、最初に会長・幹事懇談会が行われました。同会では、当クラブ会長及び幹事より、当クラブのテーマである「明るい未来のために」のご説明、その他の運営方針及び活動内容の報告が行われました。石丸ガバナーからは、当クラブの奉仕活動の独自性、多様性、回数等について非常に立派であるとお褒めの言葉を頂きました。また、当クラブから地区委員会の委員長及び委員を多数輩出していることにも言及され、地区での活動への貢献についての感謝のお言葉を頂きました。

次に、ガバナーご一行様と当クラブ理事、委員長及び部門長を交えたクラブ協議会が行われました。このクラブ協議会では、例年、各委員長及び各部門長からの奉仕事業等の報告がなされるのが通例でしたが、石丸ガバナーが事前に活動計画書を隅々までご覧になって来られており、かつ、会長・幹事懇談会においても活動概要の報告を行ったことから、石丸ガバナーから「活動の内容ではなく、ロータリーに対する想いを聞かせてほしい。」とのご要望がありました。これを受けて各委員長及び各部門長から、「もっと勉強を重ねて自分を高める場にしていきたい。」、「ロータリーを通じて奉仕が何たるかを考え、仕事に活かしていきたい。」といった発言がありました。非常に斬新な企画ではありましたが、その場の熱量が上がっていき、各人のロータリーに対する考え方を再構築する絶好の機会となりました。

そして、ガバナーご一行様をお迎えしての例会が行われました。当日、新入会員の出席があったため、石丸ガバナーからバッジを付けて頂き、ロータリーへの歓迎のお言葉を頂きました。メインプログラムであるガバナーの卓話においては、まず、本年度の地区のテーマが、ジェニファー・ジョーンズRI会長のテーマを敷衍し、明確にするようなものであるとのご説明があり、次に4つの地区目標についての詳しいご説明がありました。この中では、「会員ひとりひとりが持つ力を合わせ、活動ができれば、とても大きな力が発揮できる。」ということが印象的なお話でした。これに加えて、地区大会、世界大会、国際ロータリースキー同好会への参加の呼びかけなどがありました。

この公式訪問では、総じて、石丸ガバナーのロータリーへの強い想いを感じるとともに、個々のロータリアンの力を引き出し活用することこそが真の「職業奉仕」ではないか、というお考えをお教え頂き、各会員が大きな学びを得たのではないかと思います。

この度は、当クラブへのご訪問を頂きまして誠にありがとうございました。



札幌ライラックロータリークラブ

10/7(金)

令和4年10月7日（金）札幌ライラックRCにおいて、石丸修太郎ガバナーをお迎えしての公式訪問が行われました。

例会前に行われた【会長・会長エレクト・幹事懇親会】においては石丸ガバナーのほか、平ガバナー補佐・中村地区幹事にもお越しいただいており学童支援を通じて会員増強の方法等、具体例を示し多くの貴重なアドバイスをいただき今後の運営に大変参考になりました。

午後6:30より、訪問頂いた地区幹事の皆様とともに例会は始まりました。

石丸ガバナーとバナーの交換を行い、そしてコロナで中断していたロータリーソングもこの例会で復活致しました。

石丸ガバナーより、「ロータリーに想いを馳せる」についてのお話があり、またコロナ禍の中でも例会や奉仕活動の運営にも工夫を凝らしてとにかく楽しみながら行って下さいと励ましていただきました。

我々役員も、今期のテーマそして地区方針をしっかり学ぶことができましたので、会員自らが豊かな人生となるような奉仕活動を実施してまいりたいと思います。

例会終了後、記念撮影を行い和やかに終了し有意義な例会となりました。

私達のクラブの喫緊の課題は、会員数の増加と未来のロータリアンの育成にあると自覚しています。「次の例会が楽しみで待ち遠しい」と皆様に思っただけのクラブを目指して、いろんなことにチャレンジしていきたいと思います。

本日参加の皆様には、公式訪問の成功に尽力して頂き本当にありがとうございました。



羽幌ロータリークラブ

10/20(木)

2022-23年度の羽幌RCのガバナー公式訪問は、当初、7月中旬の予定でしたが、町内、クラブ内でのコロナ感染が急激に増えたため延期となり、令和4年10月20日に開催されました。石丸ガバナー、徳田地区幹事、忠津第一グループガバナー補佐、で当クラブを訪問されました。

石丸ガバナー、徳田地区幹事が前日より来町するというので、ささやかながら食事会を開催し、全員抗原検査を実施してお酒を飲みながら歓談いたしました。注) 全員少し飲み過ぎたみたいです。

翌日、午前10時から会長、会長エレクト幹事との会議が行われ、当クラブの運営にかかわるアドバイス等をいただきました。

そのあとクラブ協議会が開催され、各委員会の活動計画やロータリーに対する思い等が、委員長より発表され、意見交換が行われました。その中で、当クラブの職業奉仕委員会が企画している「職業奉仕賞」に石丸ガバナーが着目され、石丸ガバナーが学んだ職業奉仕の考え方を述べられ、職業奉仕に対する方向性を改めて考える場面となりました。

12時15分からの例会では、石丸ガバナーよりロータリークラブの最新情報や、地区大会への全員登録に感謝を述べられ、また、メルボルン国際大会への参加要請をされておりました。

和やかな雰囲気の中、例会が終了し記念写真を撮って終了した2022-23年度のガバナー公式訪問であ



札幌モーニングロータリークラブ

10/26(水)

10月26日（水）午前7時30分よりセンチュリーロイヤルホテル20階にて、石丸修太郎ガバナー、古野重幸ガバナー補佐、河口義憲地区代表幹事をお迎えし、ガバナー公式訪問例会が開催されました。前日のクラブ協議会時にお話しされた石丸ガバナーの予言通り快晴の空のもと、さわやかな朝のすがすがしい景色を眺めながらラジオ体操で気持ち良く体を整え、札幌モーニングRCのオリジナルソング「さわやかな朝に」を歌い、大変和やかな雰囲気の中、例会がスタートしました。

石丸ガバナーからは、ジェニファー・ジョーンズRI会長の本年度の方針、地区での取り組み、会員の動向等多岐にわたってお話を頂きました。また我がクラブの独自の活動であるカミネッコン植樹や青少年奉仕活動に関しご理解を示され、今後の活動に関しても多くの期待の言葉を頂戴しました。また、前日の10月25日（火）には、会長・幹事懇談会及びクラブ協議会も行われ出席者である会長他各役職の会員の話に熱心に耳を傾けて頂きました。

更にクラブ協議会後に行われました懇親会におきましても、ざっくばらんにお話頂きましたおかげで、当クラブの会員も石丸ガバナーに対し、より親近感が増し、身近にお話ができる貴重な機会となりました。

大変ご多忙な中での2日間にわたる公式訪問、誠に有難うございました。



札幌ロータリークラブ

10/26(水)

地区大会が終わって間もなくの10月26日、石丸修太郎ガバナーに公式訪問をいただきました。ガバナーのほか古野重幸ガバナー補佐、徳田雄大地区幹事にもおいでいただき、あらためて感謝いたします。

例会に先立ち、午前10時30分から会長・幹事懇談会を開き、クラブ運営の在り方、悩みなどについて忌憚なく意見交換をさせていただきました。11時30分からはクラブアッセンブリーを開催し、理事、役員、各委員長25人が出席。石丸ガバナーからのお題は「それぞれのロータリー観」。限られた時間でしたが、全員が、ロータリーへの思い、入会の動機、ロータリーで得たものなどを発表しました。日頃の活動を通じてお互いを知っていたつもりでしたが、改めて、ロータリーとのかかわりを聞くことで、新たな発見がたくさんありました。ガバナーのお題が、当クラブの良い刺激になったことは間違いありません。



例会では、石丸ガバナーの卓話から、ガバナーご自身のロータリー観を知ることができました。「ロータリーだからこそ、胸襟を開いて学ぶことができる。自分の才能をロータリーの仲間と分かち合おう。皆のことを知って学ぶことで自分を高めることができ、それが仕事、生活、家庭の全部にプラスに働くはず」というお話に、ロータリーの価値、ロータリアンであることの意義を再認識しました。会員であることに迷いがあったとしても、ガバナーのお話で、大いに励まされたことと思います。

当クラブが順調に会員を増やしていることについて評価いただき、その上で「ロータリーは発信することが大事。ロータリークラブはますます元気に外に発信してください」との激励を頂戴しました。

年度終了まで残すところ半年。折り返し地点でガバナーの訪問を受け、当クラブみな新たな気持ちで奉仕の精神を心に刻みました。



札幌西北ロータリークラブ

10/27(木)

去る10月27日（木）石丸修太郎ガバナー、古野重幸第4グループガバナー補佐、川村忠地区幹事をお迎えしてガバナー公式訪問が行われました。

午前10時30分からの会長、会長エレクト、幹事との懇談会では、石丸ガバナーの気さくなお人柄に導かれ札幌西北RCの奉仕活動などについて楽しく懇談させていただきました。午前11時30分から開催したクラブ協議会では、石丸ガバナーより「皆さんのロータリー感をぜひお聞かせいただきたい」とのご要望を受け、参加した各委員長と入会3年未満の会員から一言ずつお話しさせていただきました。会員同士でもなかなか聞く機会が少ないそれぞれのロータリー感を共有できた貴重な機会となりました。

その後の例会では、石丸ガバナーより、第2510地区の奉仕活動としてウクライナへの支援やポリオ支援について詳しくお話をいただき、また米山奨学生への支援について、奨学金を受けた日本を愛する優秀な人材が世界各国で活躍し、この緊迫した世界情勢の中で日本と世界をつなげる架け橋となっていることをお話しいただきました。ロータリーの活動が日本、そして世界の平和と調和に重要な役割を果たしていることを改めて深く理解する貴重な機会となりました。また、10月に開催された地区大会において当クラブがコ・ホストを務めたことに、感謝のお言葉も頂戴致しました。

最後に石丸ガバナー、古野ガバナー補佐、川村地区幹事を囲みメンバー全員で記念写真を撮影し、公式訪問を終了しました。

全てのプログラムにおいて石丸ガバナーの温かく懐の深いお人柄に触れることができ、会員一同学びの深い、大変有意義な時間を過ごさせていただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。



札幌手稲ロータリークラブ

10/29(土)

令和4年10月29日(土)、石丸ガバナー、古野ガバナー補佐、中村地区幹事を迎えての公式訪問がありました。

会長・幹事懇談会では、平川会長より当クラブの奉仕活動の主な事例として下記の事業の報告がなされました。

- ①「ロータリー杯争奪西区・手稲区中学校スポーツ大会」
- ②高校生奨学金事業
- ③「地域に花を」プロジェクト
- ④「未来ビジョン委員会」
- ⑤ZOOMを活用した例会、SNSを利用したコミュニケーション
- ⑥会員増強について

石丸ガバナーは特に、「ロータリー杯争奪西区・手稲区中学校スポーツ大会」の歴史と今年度で終了することに至った経緯に興味をもたれ、「大変意義のある事業を長年継続してきたことは素晴らしいことです」とのお言葉をいただきました。

クラブアッセンブリーでは、各委員会からの活動報告を受け、特に石丸ガバナーが力を入れております青少年奉仕委員会の活動を受け、「青少年奉仕に力を入れてこられた札幌手稲RCの皆様こそ、ローターアクトクラブやRYLAへ積極的に参画してほしい」と熱弁されました。また増強部門の発表に対しては、「会員減少の危機感を感じて、クラブが一丸となり、オリジナリティあふれる増強活動をしている」との賛辞をいただきました。例会の卓話では、石丸ガバナーが職業奉仕に関する考え方のお話をされ、「職業奉仕とは、ひとりひとりが持っている才能を情報として会員と共有することであり、ロータリアンはその才能を使って人のために役に立てないかと思う人の集まりである」とお話しされました。

この理解は、大変わかりやすく勉強になったと会員からも感想が聞かれました。

今回の石丸ガバナーの公式訪問は、当クラブの活動や想いを理解していただけたことと共に、石丸ガバナーのお人柄がよくわかり極めて有意義でありました。

心より感謝申し上げます。



札幌西ロータリークラブ

11/1(火)

11月1日（火）、札幌プリンスホテル国際館パミールにおいて、国際ロータリー第2510地区の石丸修太郎ガバナー、古野重幸ガバナー補佐をお招きして「ガバナー公式訪問」を開催しました。

11時半から始まった「クラブアッセンブリー」では、各委員長からの活動状況報告に併せて、石丸ガバナーより「ロータリーに対する思い」についても聞かせてほしいという要望があり、各委員長より活動報告とともにロータリーについて思うことを発表しました。同席していた新会員の方々からも各委員長の考えに触れて参考になったとのご意見もありました。

12時半からの「公式訪問例会」では石丸ガバナーより卓話をいただきました。1905年2月23日にアメリカ合衆国イリノイ州シカゴの一青年弁護士であったポール・ハリスが、親しい友人3人と始めたロータリーの誕生から現在に至るまで、一業種ひとりの撤廃をはじめ時代に応じてその在り方が変化していったという振り返りがありました。

また、四大奉仕のひとつである職業奉仕の捉え方について、石丸ガバナーがご入会された当初は職業奉仕があるからロータリーなのだという説明があり、活動していく中で次第に、自分の職業を理解してもらおうと同時に皆さんのことを理解しようとするのが肝要で、ひいてはそれが職業奉仕への理解と推進につながるという思いに至ったそうです。

ロータリー財団の活動に関しては、2月24日からロシアの侵攻を受けているウクライナへ、災害対策基金にてラトビア経由で消防車を寄贈する話題がありました。ロータリークラブが法人格をもたないことによるラトビアへの送金上の諸問題などがあり、結果的に時間がかかってしまったようでした。

米山奨学生について、現状ひとり当たりの平均寄付金額を下回っているというご指摘があり、今後も支援を継続するべく、寄付を奨励する呼びかけもありました。

地区の告知として、2023年2月11日より、国際ロータリースキー同好会の行事が倶知安町にて実施されること、また2023年5月12日より3日間、ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）が予定されており、札幌西RCが世話役になるとのことで、その協力依頼のお言葉をいただきました。ガバナーとしてホームでの公式訪問ということもあり、和やかな雰囲気にも包まれた例会でした。

